須賀川市

洪水・土砂災害ハザードマップ

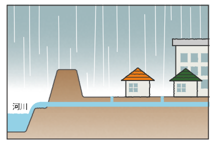
洪水・土砂災害避難地図

- ●身の回りにある危険を知りましょう。
- ●避難所・避難経路を確認しましょう。

須賀川市

洪水発生のしくみ

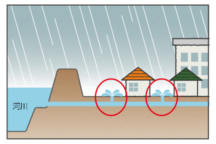
平常時



●降った雨は排水路などを通って河川に排水されています。

集中的な豪雨があると・・・

内水氾濫（ないすいはんらん）

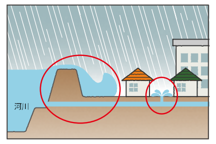


●雨の量が排水路の排水能力を超えたり、排水先の河川の水位が上昇したりすることで、スムーズに排水できなくなり逆流して、浸水します。

局地的に集中的な降雨（いわゆるゲリラ豪雨）があると、たとえ降雨の継続時間が短くても、内水氾濫が起こることがあります。
また、内水氾濫は、河川から離れた場所でも起こりますので、注意が必要です。

更に強い雨が降ったり、降雨が長時間連続したりすると・・・

外水氾濫（がいすいはんらん）



●大雨によって河川の水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりして浸水します。

外水氾濫は、内水氾濫に比べると雨が降ってから浸水被害が発生するまでの時間が長い傾向がありますが、一旦氾濫が起きるとあふれ出る水の勢いが強く、短時間のうちに広範囲に甚大な被害が広がりやすいのが特徴です。
上流側で降った雨により河川が増水して氾濫する場合もありますので、周辺の降雨状況にも注意しましょう。

内水氾濫と外水氾濫は、同時に起こる場合があります。

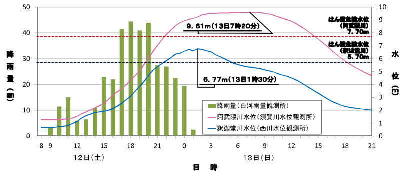
過去の水害　令和元年台風第19号（東日本台風）

大型で猛烈な勢力の台風第19号は、令和元年10月10日から13日にかけて東日本を中心に強い雨を降らせ、関東甲信地方、静岡県、新潟県、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量が観測史上1位を更新しました。気象庁は12日から13日にかけて、13都県に大雨特別警報を発表し最大級の警戒を呼びかけましたが、全国では8万棟以上の住家が浸水し、負傷者は380人、死者・行方不明者は102人におよびました。

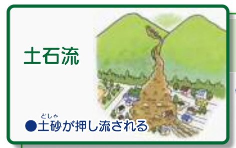
福島県内では11日から雨が降り始め、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しく雨が降り、福島県の広い範囲で11日15時から13日6時までの総雨量が200mm以上の大雨となり、白河地点では、17時間の降雨量が368.5mmを記録しました。このため、住家の全壊が1,351棟、半壊11,513棟、一部損壊4,408棟、死者32名という甚大な被害を受けました。

須賀川市でも、須賀川水位観測所（阿武隈川）で9.61mを、西川水位観測所（釈迦堂川）では6.77mの最高水位を記録し、全壊155棟、半壊674棟、一部損壊233棟となりました。また、2人の方が犠牲になり、183人が救出される過去の災害に例を見ない甚大な被害を受けました。

2019.10.13　国土地理院撮影



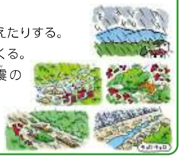
土砂災害



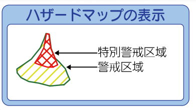
山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるもの。

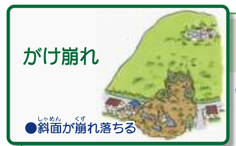
土石流の前兆

①山鳴りがする。
②川の中でゴロゴロという音がしたり火花が見えたりする。
③川の水が濁り、水と一緒に倒れた木が流れてくる。
④山全体がうなっているような音がしたり、地震のようにふるえたり、異常なにおいがする。
⑤雨は降り続いているのに、川の水が減る。



ハザードマップの表示

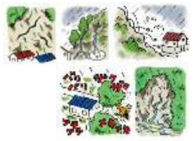



がけ崩れ
●斜面が崩れ落ちる

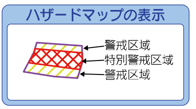
地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちること。

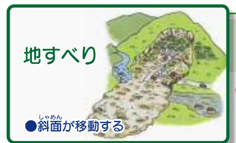
がけ崩れの前兆

①がけにひび割れができる。
②がけから急に水がわき出る。
③がけから小石がぱらぱらと落ちてくる。
④がけの上の木がゆれたり傾いたりする。
地鳴りがする。
⑤わき水の量が急に増えたり、吹き出したり急に止まったり、水が濁ったりする。



ハザードマップの表示

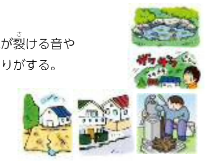



地すべり
●斜面が移動する

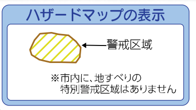
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のこと。

地すべりの前兆

①池の水が濁ったり、急に減ったりする。
②風もないのに山の木がザワザワする。木が裂ける音や木の根が切れる音がする。地鳴りや山鳴りがする。
③わき水が増える。
④地面にひび割れや段差ができる。
⑤井戸水が濁る。



ハザードマップの表示



※市内に、地すべりの特別警戒区域はありません

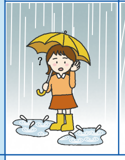
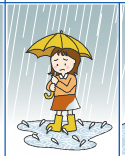
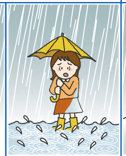
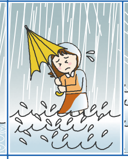
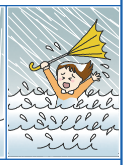
土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域

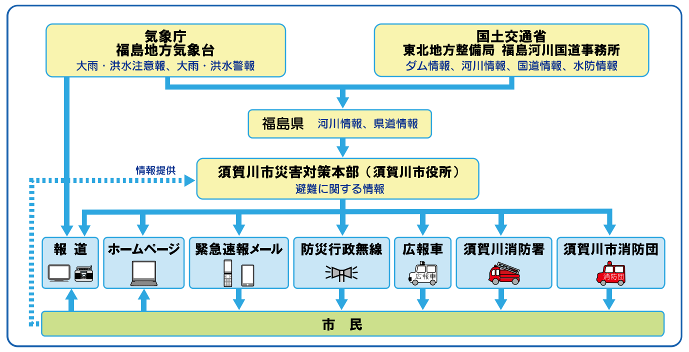
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

雨の強さと降り方

予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	話し声が聞き取りにくくなる。跳ね返りで足元がぬれる。	傘をさしていてもぬれる。		傘は全く役に立たなくなる。	
					
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。		道路が川のようになる。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる。	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい。	高速走行時、ブレーキが効かなくなる。（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険。	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ、がけ崩れがおきやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

気象庁ホームページをもとに作成

防災情報の流れ



気象庁 福島地方気象台
大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所
ダム情報、河川情報、国道情報、水防情報

福島県 河川情報、県道情報

須賀川市災害対策本部（須賀川市役所）
避難に関する情報

情報提供

報道 / ホームページ / 緊急速報メール / 防災行政無線 / 広報車 / 須賀川消防署 / 須賀川市消防団

市民

災害時には、防災行政無線、消防団、広報車などによる避難の呼びかけ、ホームページ、携帯電話へのメールの避難情報などに十分に注意し、より安全に避難できるようにましょう。

防災関係機関一覧

須賀川市災害対策本部……0248-75-1111（代表）
（須賀川市役所）

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
長沼市民サービスセンター	0248-67-2111	公立岩瀬病院	0248-75-3111
岩瀬市民サービスセンター	0248-65-2111	独立行政法人国立病院機構 福島病院	0248-75-2131
須賀川地方広域消防本部	0248-76-3111	病院（　　　　）	
須賀川消防署	0248-76-3197	東北電力（株）	0120-175-366
長沼分署	0248-67-3303	NTT東日本 固定電話から	113
火事の発生場所【テレホンサービス】	0248-76-8181	NTT東日本 携帯電話から	0120-444-113
須賀川警察署	0248-75-2121	須賀川市水道お客様センター	0248-63-7111
休日夜間急病診療所	0248-76-2980		

我が家の防災メモ

家族の集合場所	

名前	電話番号	携帯電話	メモ

非常用伝言ダイヤル（171）電話サービス

伝言の録音方法
171 1 0248-電話番号
市外局番

伝言の再生方法
171 2 0248-電話番号
市外局番

須賀川市の災害情報提供

防災行政無線音声ガイドサービス　0248-63-8330
●防災行政無線で放送された内容を確認することができます。

須賀川市公式ホームページ	https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/
須賀川市市民安全課 Twitter	https://twitter.com/bousai_sukagawa
すかがわ安心・安全メール	07011@nopamail.jp

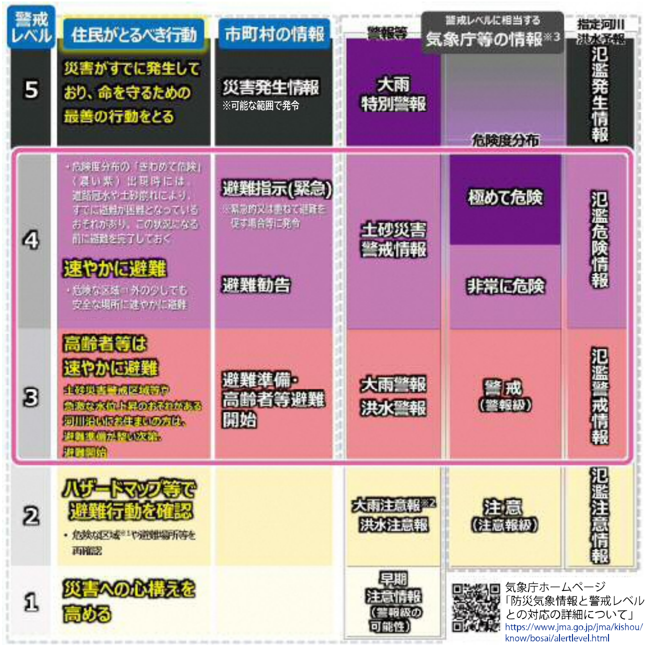
●須賀川市の不審者情報、防犯情報、災害情報などをお知らせするメール配信サービスです。空メールを送信して登録してください。

QRコードをご利用下さい。

発行　須賀川市総務部市民安全課　〒962-8601　須賀川市八幡町135番地
TEL.0248-75-1111（代表）　FAX.0248－73－4160　令和2年7月

避難の呼びかけがあったら、速やかに避難しましょう

気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって災害がおこるおそれのある時に「注意報」を、また重大な災害が起こるおそれのある時に「警報」を発表し、注意や警戒を呼び掛けます。土砂災害や洪水の危険性がある地区にお住まいの方は、これらの情報に注意して、自主的な避難をしましょう。警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。特に、避難行動に支援を必要とされる方は、早めに避難を開始しましょう。



警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒レベルに相当する気象庁等の情報※3		
			警報等	危険度分布	指定河川洪水予報
5	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる	災害発生情報 ※可能な範囲で発令	大雨特別警報		氾濫発生情報
4	・危険度分布の「きわめて危険」（濃い紫）出現時には、道路冠水や土砂崩れにより、すでに避難が困難となっているおそれがあり、この状況になる前に避難を完了しておく 速やかに避難 ・危険な区域の外の少しでも安全な場所に速やかに避難	避難指示（緊急） ※緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令 避難勧告	土砂災害警戒情報	極めて危険 非常に危険	氾濫危険情報
3	高齢者等は速やかに避難 土砂災害警戒区域等や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は、避難準備が整い次第、避難開始	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報 洪水警報	警戒 （警報級）	氾濫警戒情報
2	ハザードマップ等で避難行動を確認 ・危険な区域※1や避難場所等を再確認		大雨注意報※2 洪水注意報	注意 （注意報級）	氾濫注意情報
1	災害への心構えを高める		早期注意情報 （警報級の可能性）		

気象庁ホームページ
「防災気象情報と警戒レベルとの対応の詳細について」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

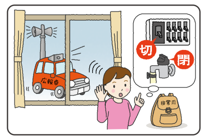
※1 災害が想定されている区域（土砂災害警戒区域や浸水想定区域）等を日頃から確認し、避難の判断の際にご活用ください。
※2 夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替わる可能性が高い注意報は、避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル3）に相当します。
※3 気象庁等の特別警報・警報・注意報は概ね市町村ごとに、危険分布は概ね1km四方の領域ごとに、指定河川洪水予報（氾濫発生情報、氾濫危険情報、氾濫警戒情報、氾濫注意情報）は河川ごとに発表されます。

出典：気象庁ホームページ

防災情報の入手先

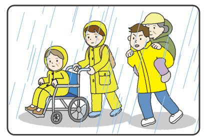
- ●気象庁ホームページ ……………………… http://www.jma.go.jp
- ●福島河川国道事務所 ……………………… http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/
- ●福島県河川流域総合情報システム …… http://kaseninf.pref.fukushima.jp/
- ●須賀川地方広域消防組合 ………………… http://www.sukagawa119.jp/
- ●地域コミュニティFM「ウルトラFM」… FM86.8MHz

避難時の心得



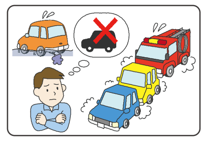
1．避難の呼びかけに注意

- ●避難勧告や避難指示には、すみやかにしたがいましょう。
- ●台風接近や夜に大雨が降ることが予想される場合は、明るいうちに 安全な場所に避難しましょう。
- ●ガスや電気のチェックも忘れずに。



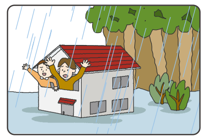
2．お年寄り等の避難に協力を

- ●となり近所と声をかけあって、みんなと一緒に避難しましょう。
- ●近くに支援を必要とされる方がいたら、助け合いましょう。



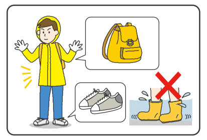
3．車での避難は控えて

- ●避難の際は、車の使用を控えましょう。（渋滞に巻き込まれたり、道路浸水によりマフラーから水が入り、車が止まってしまうことがあります）
- ●やむを得ず車を使用する場合には、避難路が浸水していないことなどに注意し、早めに避難しましょう。



4．崖から離れた高い場所に避難

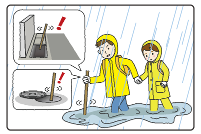
- ●すでに浸水が始まっているなど、屋外へ避難するとかえって危険な場合があります。逃げ遅れたときは、建物のできるだけ高い場所に避難しましょう。
- ●背後にがけがある場合は、がけからできるだけ離れた部屋に避難しましょう。



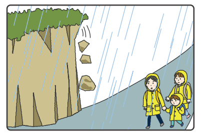
5．動きやすい服装で避難しましょう

- ●服装は身軽で目立つものにしましょう。
- ●荷物は少なく。リュックなどを使ってできるだけ両手をあけましょう。
- ●スニーカーなど履きなれた靴で避難しましょう。長靴は、水が入って歩きにくくなることがあります。

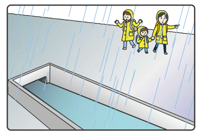
避難経路にある危険に注意しましょう



●側溝、マンホールの穴に注意



●崖からできるだけ離れて歩く



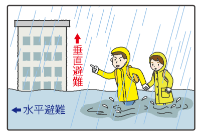
●河川の近くや水路を避ける

命を守る最善の行動を！

風水害からの避難は、避難所などへの「水平避難」か階上への「垂直避難」のいずれかが基本です。危険が切迫している場合は、指定された避難所への移動だけでなく、命を守る最善の行動が必要な場合もあります。

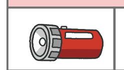
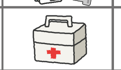
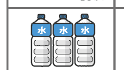
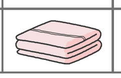
- ●避難経路の危険個所がわかりにくい
- ●ひざ上（50cm以上）まで浸水している
- ●浸水は20cm程度だが、水の流れが速い

緊急避難



このような状況で建物倒壊の危険が無いと判断される場合は、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急避難し、救助を待つことも検討してください。

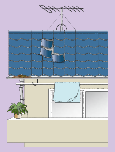
避難時の持ち出し品

必需品			
	懐中電灯		貴重品
	携帯ラジオ＋予備乾電池		救急セット 常備薬、体温計等
	水		衣類・下着類
	非常食		ロープ
	タオル		毛布

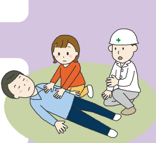
必要に応じて
チリ紙、ウェットティッシュ
子ども用ミルク、哺乳瓶、紙おむつ
ヘルメット、防災ずきん
携帯ナイフ、はさみ、筆記用具
使い捨て食器類
ドライシャンプー、石鹸
軍手、マスク
レジャーシート、ビニール袋
生理用品
介護用品、持病薬
防寒着

日頃から災害に備えましょう

- ●自宅周辺に飛ばされたり倒れたりするものが無いか点検しましょう。
- ●水が流れやすいように側溝を掃除しておきましょう。
- ●屋根、雨どい、窓、雨戸や塀の破損、ぐらつきは補修・補強をしておきましょう。



- ●非常持ち出し品や非常用備蓄品を準備しましょう。
- ●備蓄品は日常生活で使用し、使った分を買い足しましょう。（ローリングストック法）

- ●いざという時にあわてないように、地域の避難訓練などに積極的に参加しましょう。